

# 週間感染症情報

2020年42-43週 2020年10月5日より2020年10月25日まで

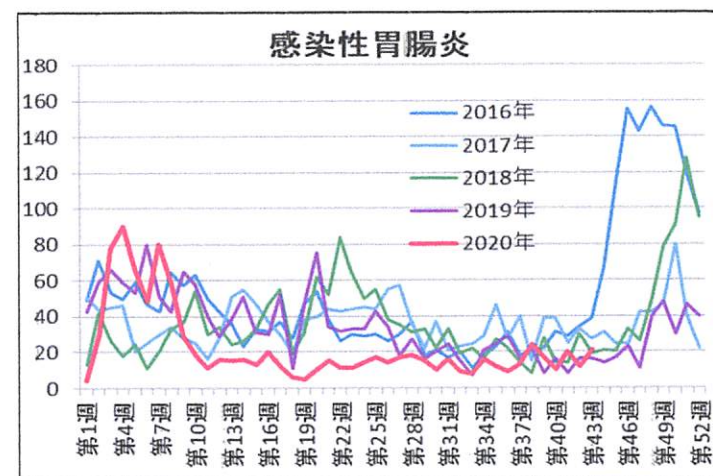
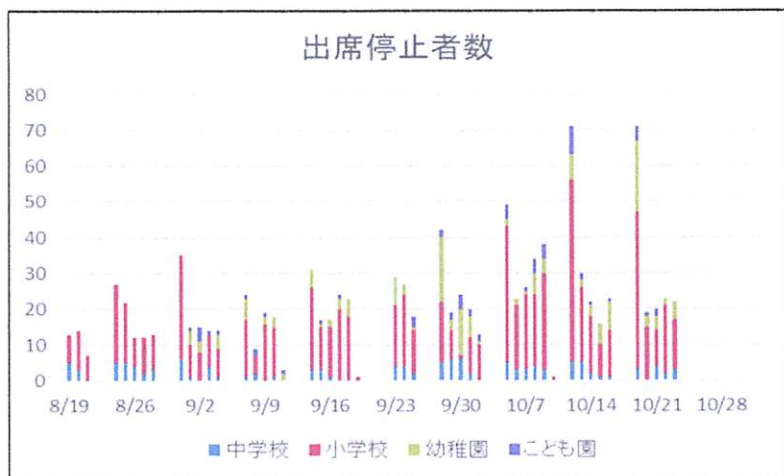
42週 43週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)	2	
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	3	3
手足口病	1	2
ヘルパンギーナ	2	1
伝染性紅斑		
感染性胃腸炎	12	21
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹	6	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	3	4
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症		
RSウイルス感染症		
マイコプラズマ感染症		
ヒトメタニューモウイルス		
インフルエンザ(臨床診断含む)		
インフルエンザA		
インフルエンザB		

42-43週の報告です。教育委員会からの報告は左下のグラフのように増えています。発熱の患者さんは少ないですが、鼻汁や咳など感冒症状の患者さんが増えています。RSウイルスの報告はありません。ライノウイルスなどいわゆる「はなかぜ」のクラス内の小流行があるようです。これに伴い喘息発作も増えています。

右下のグラフのように感染性胃腸炎の報告は増えていませんが、嘔吐を主とするノロウイルス胃腸炎と思われる症例を見かけるようになりました。多くは数日で回復しますが、輸液が必要となる症例もあります。コロナよりはるかに感染力が強く、不顕性感染もあるので感染予防はコロナよりはるかに困難です。また、治癒しても1週間から1か月、便へのウイルス排泄は続きます。便を流すときにエアゾルが発生するので、便器のふたをして流すようにしてください。

市内の介護施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。初期症状は、かぜやインフルエンザに似ており区別は困難です。コロナでは、だらだらと症状が続き1週間前後で80%は治癒します。その後20%の人が肺炎を起こして入院が必要となります。誰でも感染する可能性があります。必要以上に怖がることはありません。体調不良であれば休む、手洗い、マスク、三密を避けるなど感染予防策は変わりません。これからも続けましょう。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> )